

第13回 日本とインドの文化交流勉強会

2019年11月30日 14時45分～16時30分

岐阜県多治見市 徳林院にて

(テーマ) 「われわれは、自然や動物から何を学べるのか」

～心を穏やかに満ち足りた人生を過ごす方法～

日本ヴェーダーンタ協会代表 スワームィー・メダサーナンダ

ヴェーダの祈り

みなさんの心が平安となりますように、みなさんの幸せのために祈ります。

賛歌はサンスクリット語です。サンスクリットという発音のことですが、本当のはつ音はサンスクリタツといえます。イギリス人がサンスクリタツとはつ音できないのでサンスクリットとなっています。昔から伝わるサンスクリット語の意味は「美しくきれいな言葉」、「神聖な言葉」といわれています。そのサンスクリット語でつくられた祈りです。

今日の講座は今回で13回目となります。

毎年6月に多治見で開催していましたが、今年は私の体調がよくなり、しばらくインドに帰っていましたので、毎年のように6月には開催できませんでしたが、コンパスのみなさん、東京の協会からも協力してもらって、この11月に開催できることになりました。私の体調のこともあり全国での講演会はキャンセルとしましたが、多治見は特別に講演することにしました。

今日の講演会は神様の恩寵です。みなさん、ありがとうございます。

こうして私の身の回りのことは、みなさんにいろいろと面倒をみてもらい助けてもらっているのですが、本当に助けてもらっているのは、一人だけです。それは母なる神さまです。

私たちは多くの人に助けてもらっているようにみえますが、一人一人を助けているのは母なる神さま一人なのです。

また母なる神さまはみなさんを助けるだけでなく、あなたの中に入り面倒をみてくださっているのです。このことを理解してください。

すべてのみなもとは一つなのです。みんなが神さまの子供なのです。

このことがわかってくると神さまがとてもありがたいという思い、その感情がわいてきます。

前回のテーマはパタンジャリのヨーガ・スートラでしたね。ヤマ・ニヤマのことを話しました。前はヨーガ哲学の話でしたが、今日はもっと身近なお話です。身近な自然を

テーマにします。

日本人は自然が大好きです。大好きですが、自然から何を学ぶのかは考えていません。

「自然が大好き」であるのと「自然から学ぶ」というのは違います。

今日はまわりの自然から何を学びますか？というお話しです。

このテーマでお話しすると、テーマが大きいのでお話しするのに3日間くらいかかるのですが、今日はそんなに時間がないので、ポイントを絞って大切なことを話します。

今日の講座はインドの物語からはじめます。

ある若い修行僧(アヴァドゥータ)がいました。その若い修行僧は聖地をあちこちめぐる遍歴僧なので家も持たず家族もいません。

ですがインドの遍歴僧はお金や所持品も持たないので、移動しながら木の下や洞穴などどこでも寝ることができますし、食べ物の心配もしていません。

若い修行僧は何も持っていないなくても幸せで、働いていなくても、結婚をしていなくても、お金がなくてもそれでも喜びにみちていました。若い修行僧は心配事がないのでいつも心が穏やかでした。

みなさんはどうですか？心配な事が多いでしょうか？

あるとき若い修行僧(アヴァドゥータ)が賢者ヤドゥ王のところに行きました。

賢者ヤドゥ王は、何も持たず、何ものも恐れずにさすらっているのを見て、何か秘訣があるのではないかと不思議に思い、若い修行僧にいろいろな質問をしました。

「お坊さま、あなたにはエゴがない、どのようにして偉大な智慧を得て、子供のように何の心配もなく心穏やかでおられるのでしょうか」

その若い修行僧は、賢く智慧がありました。

若い修行僧には3人のグル(先生)がいました。社会生活や道徳を教えるグル、マントラを教えるグル、悟り(ギャーナ・神さまの知識)を教え導くグルです。

まず、私たちは生まれて、まずお母さんから社会生活や道徳を教わります。それからお父さんにも教わります。その次に学校の先生に教わります。みなさんもそうですね。両親はグルです。

次はマントラを教えるグル、特別なグルです。もっと特別なのは神様の知識(ギャーナ)を教えるグルです。その神さま(神聖な言葉)の知識を教えるグルが一番のグルなのです。

アヴァドゥータにはそのほかに別の多くのグルがいました。その数は24です。24の教師たちといいます。

みなさん、どのようなグル(先生)だと思えますか？考えてみてください。

参加者・答え

「大地、水・・・虫、木・・・月、太陽、・・・友達、空気、花、天気、火・・・」
いろいろでできましたね。この地球に存在するほとんどのものは自然です。

私たちは、その自然から何を学ぶのでしょうか。

24人の教師たちのほとんどが自然の中にあります。

大地、空気(風)、空間、水、火は地球をつくっている5つの要素です。

月、太陽、ハト、ニシキヘビ、海、蛾、象、ミツバチ、ハニーハンター、鹿、魚、娼婦
ピンガラー、ミサゴ、おとめ、矢の職人、蛇、肉体、蜘蛛、ブラフマラ・キータ(特別な虫)が24人の教師で、若い修行僧はそこからも学びました。

どのように学ぶのかというと、よく観察するのです。ただ見るだけではありません。見ることと観察は違います。見ることだけではすぐ忘れてしまいます。

たとえばヘビは他の動物が掘った穴に入り、そこで幸福に暮らします。そのように聖者はどんな家にも縛られずに、洞窟から洞窟へと一人さすらいます。聖者は自慢などしないで静かで、他を利することのみを語ります。

ニシキヘビはたまたまやってきた獲物で満足するように、修行僧(賢者)もたまたま得られる食べ物で満足します。

私たちは、感覚をコントロールできなければ、火に入る蛾のように底なしの暗闇へと落ちていくでしょう。

太陽は一つでも、多くのコップの中に映れば、多数であるかのように見えます。そのように唯一のアートマンも多くの生きものたちのなかに映って、無数であるかのように見えるのです。

このようにして、私たちも観察することで学ぶことができます。そうすれば私たちにも先生が増えます。このことは大切なことです。覚えておいてください。

このように観察し、学ぶことは肯定的なことです。

この24のグルの中から今日は大切なことを1つお話ししましょう。

私たちはこの大地から何を学ぶことができるのでしょうか？考えてください。

私たちは地面を掘ったり、削ったり、耕すこともします。いろいろなことで地面を傷つけます。また家などを建てますね。では、地面は痛くないのでしょうか？

もし人を引っ掻いたら血がでるし、痛いですね。それは嫌なことです。

地面はどうでしょうか。地面は痛いなどと文句をいいません。がまんをしています。

大きなマンションを建てることもありますね。大きなマンションは重いでしょう？

それでも地面は文句をいいません。重くても耐えているのです。

地面は・・・それをゆるしているのです。

がまんすること、ゆるすこと、見返りを求めないこと、それはあたえ続けていることです。

ホリー・マザーが「がまんする。文句をいわない。耐える。」とおっしゃった言葉は有名です。

「がまんする。文句をいわない。耐える。」は幸せになるための重要な条件の1つなのです。

そうしないとより良く生きることはできないのです。

あなたもこの大地のように耐えてください。

それから、自然は常にあたえ続けていて、見返りをもとめていません。

たとえば、木のことについても考えてみましょう。

木は花や果実を実らせませす。それらのものを実らせませすが、それは何のために？

だれのためなのでしょう？

花々、野菜・・・それらは私たちにとって必要ではないのでしょうか？

この部屋の扉も、床もすべて木材からできています。

自然から私たちがどれくらい恩恵を授かっているのかを考えてみてください。

私たちが木を切るときに、木々たちは「どうか切らないでください」というのでしょうか？

木々たちは、本当は切られることに涙しているのです。しかし、文句は言わないのです。

木はその命のすべてを私たちのために捧げていませんか？

毎日私たちがどれだけの命をもらっているのかを考えてみてください。

木、花、魚、野菜、鶏・・・これらは見返りなく私たちにあたえています。

これらは私たちの先生ではないのでしょうか。

自然を観察してみると、そこにはすばらしいメッセージがみえてくるのです。

生き物の中で、一番利己的な生き物は何でしょうか？

参加者全員「人間です」

そうです。すべての生き物の中で利己的なのは人間です。

例外ももちろんありますが、ほとんどが利己的に生きています。自分の家族のことだけが大切です。

もらいたいという欲望がいっぱい物たまるといっても、もっとたくさん欲しいと思います。分け合うということもしたくないです。たいていの人間はこのようなものです。

インドの聖典の中におもしろい物語をしましょう。

創造主(ブランマー)に性質の違う子供が3人いました。3人の子どもは悪魔と人間と神でした。

3人は創造者主(ブランマー)のところへ教えを乞いにいきました。

創造主(ブランマー)はまず教えのための準備として、清らかになるために、瞑想などの実践がするようにいいました。それには長い時間が必要です。

それらの修業のあと、創造主(ブランマー)は、神さまにダマを教えました。

ダマは抑制することです。なぜなら天国は楽しみがあるからです。たくさんあるので楽しみをコントロールすることを教えました。

悪魔には、ダヤ を教えました。ダヤの意味は慈悲です。

なぜなら悪魔は残酷だからです。悪魔には親切にすることを学ぶようにいいました。

人間には、ダナ を教えました。ダナの意味は助ける、お世話をする、寄付をするという意味です。

ブランマーからの人間へのメッセージは、見返りをもとめずに手伝うこと、助ける、お世話するということなのです。

もう一つの物語をお話ししましょう。

ある田舎でのお話です。

ある村はイスラム教徒たちがおおい村で、イスラム教徒たちは毎日5回祭司と一緒にモスクで祈っています。

その村には一度もモスクに行かず、断食もしない村人がいました。

村の人々は、その男のことを、神様のことを信じていない頭のおかしい悪いやつだといいました。

しかし、彼は村人たちの知らないところにある橋で、通る人々に「お腹はすいていませんか？のどは渴いていませんか？」ときいて、お腹が空いている人やのどが渴いている人がいたら、その人たちを家に招いて休ませてお世話をていしました。

その男は、毎日それだけを仕事としていました。

あるとき、天国から天使がきました。天使は、誰が天国へ行くか地獄へいくかがわかる村人たちの名前のリストを持っていました。

天国へいくリストにはそのある橋で声をかけている男の名前が1番上にあつたのです。

村人は、みな村のイスラム教の祭司の名前が1番にのっていると思いました。

ところが、祭司の名前は地獄へいくリストにありました。

なぜなら、その祭司は毎日祈っていますが、利己的でありました。ときどき嘘をついたり、人々をだますこともありました。

この物語は、どのようなことが教訓なのでしょう。

ひとりひとりの中に神さまはいらっしゃいます。

神さまのことに興味がなくても、困っている人のお世話することは神さまのお世話をすることと同じなのです。

神さまの信者を、困った人を助けると神さまはお喜びになるのです。

私たちは神さまを助けることで非利己的になれるのです。

私たちのまわりの自然はいつも真理を教えてくれています。
今日はありがとうございました。